

会議録(議事概要)

会議の名称	世田谷区政策検証委員会（第1回）
開催日時	平成22年5月21日（金）午前10時～正午
開催場所	世田谷区議会大会議室
出席者数	15名 【委員】青山賢五、浅野雄一、上田菜穂子、江尻京子、小野寺邦子、片田保、熊倉真弓、白井達郎、平野紀雄、堀口初子、和田清美、渡辺伊津子 【事務局】政策経営部長、政策企画課長、財政課長
会議の公開 （傍聴）	公開(傍聴できる)
議 題	1. 正副委員長選出 2. 委員会の概要説明 3. 検証の「視点」と「素材」について決定 4. その他
配付資料	1. 世田谷区政策検証委員会実施概要 2. 世田谷区の財政状況 3. 検証の「視点」と「素材」(案) 4. 世田谷区政策検証委員会名簿
会議概要	<p>1. 正副委員長の選出 委員の互選により、委員長に白井委員、副委員長に和田委員が選出された。</p> <p>2. 政策検証委員会の趣旨について 世田谷区より資料1、2に基づき委員会の趣旨説明が行われ、主に以下の点に関して質疑応答、意見交換が行われた。</p> <p>○ 世田谷区の財源不足は、中長期的に続く可能性がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成22・23年の二か年で80億円の財源不足は、区全体の予算額2400億円からすれば、民間企業と比べると割合でいえばそれほど大きくはないのではないか。 ⇒（区説明、以下同じ）将来の人口予測、高齢化率の上昇、公共施設等の老朽化等から予測すると、歳入は増える見込みはないが、需要は伸び続けることが予想され、今のうちに、区財政の新しい方針を立てる必要がある。今後も現在の水準のサービスを維持すべきかどうかを課題と考えている。 ・ 区は、80億円の赤字が見込まれる中で、区としてどれを優先的にしたいといった考え方はあるのか。 ・ 区は、具体的な財源確保の考えを持っているか。 ⇒何を削れば財源が確保できるという案がまだ決まっていない。既存の事業をどこまで考え直せるか、先延ばしできるか、という施策等の組み立てを、委員会のご提言を切り口に行いたい。 <p style="text-align: right;">（次頁へつづく）</p>

<p>会 議 概 要</p>	<p>○ 委員会の目的は、区の施策事業の検証の考え方を提案すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この委員会の目的は、具体の事業評価をしていくことか、行政全体で提案のあった三つの「視点」に沿ってよい行政が行われているかどうかの検証なのか。⇒後者を前提としつつ、個々の事業についても執行体制や事業の進め方の無駄などがあれば検証してほしい。 ・ 財政的な理由が問題意識ということのようだが、それをいったん脇に置いて、区民ニーズにどう応えていくかという視点を持って考えていくことも必要ではないか。全体を貫く評価軸のようなものが必要ではないか。 ・ 事業が重複していて整理統合すべき、という観点は当然あると思うが、見方を変えれば総合的に取り組んでいるということもあると思うが。⇒総合的か、重複か、という議論は確かにあるが、どちらかといえば、行政がそれぞれの部署の経緯や理由で、結局同じことをやっていることがあると思うので、サービスを受ける立場や、外部の客観的な視点からご指摘いただきたい。 ・ この委員会では、区のさまざまな政策を、横断的に検証するための評価軸を提案するということか。⇒委員会で見直し、検証の考え方といった形で集約していただければ、それを用いて、改めて全施策事業を見直していく。 <p>3. 検証の「視点」と「素材」について決定</p> <p>区より、資料3に基づき検証の「視点」と「素材」について提案された。委員の協議により、検証の「視点」と「素材」について原案通り採択された。</p> <p>主な意見は以下のとおり。</p> <p>○ 検証の「視点」と「素材」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料・手数料についても検証のテーマとすることは可能か。※委員会で協議し、検証の視点3「受益と負担」に関連して検証を行うことを決定。 ・ 委員会の目的は、提案のあった三つの「視点」それぞれについて、この委員会で政策見直しの考え方を提案する、ということのようだ。ただ、視点1の「行政と民間の役割分担」では、区のサービスの重複についても同時に議論すべきではないかと思う。 ・ 子どもに対する施策と高齢者に対する施策など、異なる部署の事業を一緒に行ったほうが効果も上がり、経費削減にもつながるのではないか。 <p>○ 検証委員会の提言に基づく今後の対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 提言に基づいて、施策の見直しや廃止を行う場合、財政状況等について丁寧に説明しないと、見直し等に関する区民の理解は得られない。広報等をもっと工夫していく必要がある。 ・ 打ち出した評価軸を全事業に適用する際に、「これは民間がやっているから任せましょう」と一概に言えない事業もあると思う。行政がやるべき事業を、誤って切らないように注意が必要ではないか。 ・ 区民から見て大事なものを残していくのは当然だが、提言を使って、改めて区のほうで事業を検証していくということであれば、少し踏み込んで、厳しく提言をしていくことが必要だ。
<p>所 管 課</p>	<p>政策企画課（電話 03-5432-2040）</p>